

## 4 組織 CPD 合同講演会のご案内

技術士の継続研鑽及び関心のある人たちに聴講・参加の機会を提供することを目的として、2012年より部会、研究会3組織（環境研究会、繊維部会、化学部会）が合同してテーマを決め、年1回の合同講演会を実施してきました。今回から農林水産部会も加わり、7回目のCPD合同講演会（4組織）を行います。

### 講演会総合テーマ

#### 地球の環境と資源を守る

#### ～プラスチックのごみ問題と今後の課題～

主催：日本技術士会近畿本部 環境研究会・繊維部会・農林水産部会・化学部会  
協力：日本技術士会近畿本部、日本繊維技術士センター(JTCC)

日時：2020年9月26日(土) 13:30～16:30

場所：アーバネックス備後町ビル3階 ホール

(大阪市中央区本町 地下鉄 御堂筋線 本町駅下車 ①出口東へ徒歩約2分)

《演題1》地球の環境と資源を守る次世代への責任・・・まやかしのリサイクル論を超えて

《講師》京都工芸繊維大学 名誉教授 奥 彬 氏

《演題2》New Plastics Economy と循環経済

《講師》同志社大学 名誉教授 郡 島 孝 氏

(講演会案内骨子は次ページ)

#### ● 申込方法：

申込先：本案内のメールに返信をお願いします。

払込先：下記の口座に振込みください。(当日の受付での三密回避にご協力をお願いします)

送金先 KL：ゆうちょ銀行「日本技術士会近畿本部化学部会」14310-83365591

(補足)ゆうちょダイレクトに登録して送金をされますと送料手数料は月5回まで無料

送金先 KM：三井住友銀行園田支店「日本技術士会近畿本部化学部会」422-5242598

(補足)三井住友銀行ネットバンキングに登録して送金をされますと送料手数料は無料

参加費(資料代)：会員2,000円、非会員3,000円、近畿本部発行パスポート提示者は会員扱い

会員：日本技術士会員(KL口座)、化学物質管理研究会員(KM口座)、どちらの口座も可

申込期限：9月17日(木)

配布法：開催当日に、化学部会専用受付にて、印刷資料でお渡しします。

問合せ先：化学部会長：伊藤 雄二 [yujiito@skyblue.ocn.ne.jp](mailto:yujiito@skyblue.ocn.ne.jp)

和田 信之 [nobuwada@leto.eonet.ne.jp](mailto:nobuwada@leto.eonet.ne.jp)

#### ● 留意事項：

本講演会は、在宅テレワーク式はありません。出席される際は、各自体調管理をお願いします。

会場の定員は、三密回避のため45名に制限されます。定員になり次第、申込締切りとなります。

日本技術士会からの通達により、本講演会後の懇親会はありません。ご了承をお願いします。

(講演会案内骨子)

## 4 組織 CPD 合同講演会のご案内

**講演会総合テーマ：地球の環境と資源を守る～プラスチックのごみ問題と今後の課題～**

主催：日本技術士会近畿本部 環境研究会・化学部会・繊維部会・農林水産部会  
協力：日本技術士会近畿本部、日本繊維技術士センター(JTCC)

日時：2020年9月26日(土) 13:30～16:30

場所：アーバネックス備後町ビル3階 ホール

(大阪市中央区本町 地下鉄 御堂筋線 本町駅下車 ①出口東へ徒歩約2分)

《演題1》 地球の環境と資源を守る次世代への責任・・・まやかしのリサイクル論を超えて

《講師》 京都工芸繊維大学 名誉教授 奥 彬 氏

《要旨》 マイクロプラスチックによる海洋汚染が問題になり、廃プラを減量して正しくリサイクルし、環境と資源を大切にしつつ産業と生活スタイルを変えようとする活動が続けられてきましたが、これまでの対策では直面する問題を解決できるとは思えず、持続型社会に近づこうとする努力が案じられる。廃プラの焼却熱回収技術は、二次資源としての廃プラの材料特性と材料エネルギーを捨てる産業責任の回避であり、問題解決にはなりません。廃プラをリサイクルにより生き返らせ、リサイクル技術を正しく使う社会を構築することが、次世代への我々の責任です。

《演題2》 New Plastics Economy と循環経済

《講師》 同志社大学 名誉教授 郡 寫 孝 氏

《要旨》 エレン・マッカーサー財団の New Plastics Economy について、バタフライ ダイアグラムを使って、「今後のプラスチックのあり方」について論じます。循環経済は、「自然循環（バイオエコノミー）」と「社会循環（サーキュラーエコノミー）」からなっています。その原則は、自然マテリアルの最小化・循環マテリアルの最大化・自然への排出の最小化にあります。更に、自然循環におけるレジリエンスと社会循環における Re\*と De\*の技術イノベーションとソーシャルイノベーションに注意を払いながら、「プラスチック問題」を考察します。

注記\*) Re とは、Reduce、Reuse、Recycle にとどまらず、Refill、Repair、Refurbish 等、De とは、分子レベルのリサイクルである Demonomer、Depolymer、Decoating 等の分解（解重合）を指す。

以上